

JECC「保守サービス向上月間」で 優秀保守技術者・応募作入賞者を表彰

10月6日開催表彰式を受賞者242名決まる 保守技術者全国25グループと応募作入賞者

JECCは、毎年10月を「保守サービス向上月間」と定め、コンピュータ保守技術者の日頃の努力を称える「優秀保守技術者表彰式典」を開催している。51回目を迎える今年の式典は、経団連会館カンファレンスで行われ、同時にオンラインでも配信される。

JECCでは、この行事の一環として、お客様を対象に保守状況調査を実施し、その結果を基に保守サービスの向上を図る保守サービス総点検運動を実施するほか、優れた保守技術者を表彰することで、さらに保守技術・保守サービスの向上が図られることを期待している。

このほど今年度の受賞者として、優秀保守技術者25グループ233名と、保守サービス向上月間標語及び保守サービスに関する感想文の受賞者9名を決定、来る10月6日に、第51回優秀保守技術者表彰式典において表彰を行うこととした。

この式典では、システムの安定稼働を維持するために日夜努力されている多くの保守技術者の中から、特に顕著な功績があった方々を優秀保守技術者として、また、応募の保守サービス向上月間標語と感想文で入賞された方々をJECCが表彰し、その栄誉を称える。

今回表彰される242名のうち、優秀保守技術者は25グループ233名で、昨年度までに受賞した優秀保守技術者は、累計で8,564名。今回の233名が加わると、8,797名になる。

優秀保守技術者の審査は、コンピュータ・メーカー6社から委託を受けた保守サービス担当会社並びに保守担当先のお客様から推薦書が提出された者を対象に、保守サービス会社及びJECCで構成

する「保守サービス責任者会議」において、次の選考基準に基づいて行われた。

- ① 担当するお客様における保守状況が良好で、システムの故障時間が極めて少なく、システムの円滑な運用に顕著な功績があったと認められる者。
- ② 保守技術者の活動を支援し、保守サービスの向上に特に功績があったと認められる者。
- ③ 保守技術の改善に特に功績があったと認められる者。

また、JECCが保守サービス関係者を対象に募集した「保守サービス向上月間標語」は、ハードウェア・ソフトウェア保守サービスの重要性や、保守技術者並びに保守サービス業務に携わる者としての心構えを短い言葉で的確に表現した内容で、最優秀作品については、その年の保守サービス向上月間のポスター等に掲載される。今年度の応募数は16,492編となり、保守サービス責任者会議で審査した結果、最優秀賞1編と、優秀賞4編を決定した。

「感想文」は、保守サービス全般に関するものをテーマに、標語と同様に募集を行い、今年度は339編の作品が寄せられた。いずれも、保守技術者や保守サービス関係者の日頃の努力や貴重な体験がにじみ出ており、仕事に対する熱意にあふれた素晴らしい内容である。こちらも保守サービス責任者会議により、最優秀賞1編、優秀賞3編が選出された。さらに受賞作品と、選考過程で選ばれたほかの優秀作品全31編を収録した「保守サービス向上月間のしおり・感想文集」を発刊して、全国の保守拠点など関係者に配付する。

また、式典では、株式会社原田教育研究所 代表取締役の原田隆史氏が、「自立型人間と自立型組織育成の極意～一寸先は、光です！～」のテーマで記念講演を行う。



目の前の課題は、
壁か。扉か。

サステナブルな視点で
答え続けていく。

